

地域情報紙 [月刊]



えーす

2024年 11月号

発行：株式会社プロジェクト・エース
〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 1-36-9 エールハイム 202
毎月1日発行 通算3号
年間購読料：5,500円(税込)

今月の主な内容

- p1** 荻窪音楽祭 開催！
デジタルスタンプラリーがスタート！
- p2** デジタルスタンプラリーキャラクター紹介
杉並区議会 第3回定例会が閉会
JC 杉並区委員会 50周年記念式典
- p3** 杉並区福祉有償運送団体連絡会が
共同で広報活動
知って安心・暮らしの防災ミニガイド
ちょっとアシスト
うちのエース！
- p4** 河北総合病院 新病院開設に向けて
緑との対話(最終回)

OGIKUBO MUSIC FESTIVAL 荻窪音楽祭 開催！

第37回荻窪音楽祭が11月7日から10日の4日間にわたり開催される。杉並公会堂はじめ教会や公園、カフェや銀行のロビー、駅前広場など、荻窪の各所でクラシック音楽が演奏される。2001年から当初は春秋2回の開催で、平成24年以降は年1回の開催となっており、主催は「クラシック音楽を楽しむ街・荻窪の会」(宇田川紀通会長)で、杉並公会堂、日本フィルハーモニー交響楽団が共催。準備に奔走中の水島隆明実行委員長と宇田川紀通会長にお話を伺った。(中田)



音楽イベントから「まちづくり」のためのお祭りへ

—まず、なぜ荻窪でクラシック、だったのでしょうか。

水島隆明実行委員長

もともとは「荻窪の21世紀を考える会」という荻窪のまちづくりを考えようという会が母体となって、サロンコンサートを始めたことがきっかけでした。荻窪のまちは駅が高架になっておらず、人や自転車が南北を自由に往来しにくく、北と南がなかなか融合しにくい構造になっています。そのため、街づくりの話題はどうしても駅前広場や地下をどうする、といったハード面に寄りがちで、「もっとソフト面でつながれないか」という発想からのコンサートでした。



—街中や屋外で演奏が聴こえて雰囲気盛り上がる、という感じではなくクラシックの演奏会を楽しむイベントという印象が強いですが。

水島

もちろん杉並公会堂があり、日フィルがいるということは大きな要素ですが、サロンコンサートが起点だったので、クラシックの室内演奏が主となっています。商店街やいろいろなお店の中での演奏など、こ

れまで試行錯誤で取り組んではみましたが、クラシック演奏の楽器の都合もあって、なかなか街に繰り出せないという点は気になっています。

—たくさんのスポンサー企業や個人のサポーターの方々が名前を連ねて応援していますが、運営面での課題などはありますか？

水島

私自身も中学時代からトロンボーンを演奏するのですが、どうしても「演奏会を成功させたい」「音楽をお届けする」ということに力が入ってしまい、イベントの裏方としての仕事に忙殺されています。そのため、多くのボランティアを組織してまちのイベントとして仕掛けるといった動きが十分にできていないことを反省しています。

—たくさんの人を巻き込んだ「まちづくり」という本来の目標、目的に向かってのイベントとしては少し課題があると言えますか？このイベントがますます「まちづくり」の仕掛けのひとつになって盛り上がると素敵ですね。

水島

ご指摘のとおり、もっと来てくださるお客様や応援してくれるサポーター、スポンサーの方々、ボランティアの皆さんなどに関わる時間や機会を増やして、この音

楽祭を通じて「まちづくり」の視点を上げていくことがこれからの私たち実行委員の役割だと感じています。

イベントをきっかけに多くの人々が訪れてくれて、また地域の方々も往来することによって、「南北の行き来が不便」といったまちの課題にも触れ、知って考えるきっかけになっていいでしょう。

—今回の音楽祭のアピールポイントは何でしょうか。

水島

荻窪音楽祭は、一部を除き基本的には無料でクラシックの演奏をお楽しみいただけます。4日間で約50ステージの様々な演奏会をお届けしますが、中でもユース・アンサンブルやフレッシュジュニア・コンサート、福島県南相馬市の中学校との共演のチャリティーコンサートなど、子どもたちによる演奏会は未来につながる大切な取り組みだと思っています。公会堂の大きなホールだけでなく、各地で「奏で

たい」「聴いてほしい」の想いで演奏させていただいているので、ぜひ荻窪に足を運んでクラシック音楽を楽しんでいただきたいと願っています。

継続することこそ大切

—宇田川会長はまちづくり協議会の頃からずっと関わってこられたわけですね。

宇田川紀通会長

ハード面でまちを変えていくことはそう簡単にはできません。ソフト面でも容易ではありませんが、でも何か行動しなければということだったと思います。当時、ブダペストを訪れる機会がありました。街で演奏している人がいて、まさに街に音楽、文化が溶け込んでいて素敵だなと感じました。歴史が違うとも言えますが、そのためには継続し、街の歴史になっていく必要があるということでしょう。



—「続けていく」ために、会長が大切にされていることは何でしょう。

宇多川

人の力です。音楽祭にはたくさんのボランティアやお手伝いいただいている人がいて、私にはその方々をサポートするくらいしかできませんが、私自身はクラシック音楽に精通しているわけでもなく、ただこの街で生まれ育ち会社を営み生活している一人として、「生活者にとって杉並をどうしたいのか」を考え、できることを実践するしかありません。

—イベント開催に向けての会長としての想いをお聞かせください。

宇多川

最初の10年間は年に2回開催で、運営側が忙し過ぎて皆さんからお叱りを受けたこともありましたが、それがいまや会場数や参加者も増え、水島実行委員長はじめ皆さんが活躍して下さっています。また、子どもたちの演奏や南相馬市の方々の演奏など、世代や地域を越えて繋がっているからこそこの企画も大切にしています。街に文化として溶け込んでいくような歴史の積み重ねになっていく、そのためにできることを私自身も続けていきたいと思っています。

東京商工会議所杉並支部 50周年記念事業 デジタルスタンプラリーがスタート！

10月26日～12月25日

東京商工会議所杉並支部(和田新也会長)は今年設立50周年を迎えた。その記念事業の一環として、10月26日から12月25日まで、区内17駅周辺140店以上の参加店をめぐるデジタルスタンプラリー「ぶらり杉並」を行っている。

同支部青年部が一般公募で作成した17のキャラクターがスタンプとなっており、スマートフォンにインストールしたお散歩アプリ『COCOAR(ココアル)』を使ってポスターをスキャンすることでスタンプを集め、その数によって景品が当たるチャンスが得られる。景品総額約230万円で、参加賞のほか、ペアお食事券や商品券等3万円の特賞30本など、区内各社・各店が協賛した景品230名分以上が準備されている。

50周年事業の実行委員会・大藪邦嗣委員長は今回の取り組みについて、「地域の企業の集まりである商工会議所としては、まず多くの方々に街を訪れ、歩いて、触れていただきたい。いろいろなやり方があると思いますが、今回は公募でできたキャラクターを活かして、スタンプラリーを企画しました。単にこの期間のイベントで終わらず、地域を知っていただき、事業者もより積極的にまちに関わるきっかけの一つになればと思います」と語っている。また、事務局の清水優さんも「キャラクター作成、スタンプラリーで終わりではなく、今後も地域産業活性化のための広報活動への活用など、事務局も会員の皆さんの声を聴きながら継続してサポートしてまいります」と述べており、今後の展開を期待したい。



事務局
清水 優さん



大藪実行委員長

デジタルスタンプラリー★キャラクター紹介

デジタルスタンプラリーで登場する17のキャラクター。区内17駅周辺のまちにちなんだ名前とエピソードとともに、2回に分けて紹介。この機会に各地をめぐる、街中で探してみては？



1

高円寺 空

気象神社が大好きで、いつも天気にもつわる服装を着ている。



2

阿佐ヶ谷 星蘭

七夕まつりに飾られるハリボテに憧れて作ったら命が宿り仲良くしている。



3

荻窪 葵

大田黒公園の音楽会と紅葉のライトアップをイメージした着物を着ている。



4

西荻窪 まこと

西荻窪に多く点在する、カレー・古本・お酒・アンティークが好き。



5

新高円寺 松里

名前の由来は松ノ木の松と梅里の里。小さい頃から阿波踊りを習っていてとても上手。



6

東高円寺 まゆみ

かいこの妖精。のんびりしていて、甘えんぼう。生まれつきの優しい女の子。



7

南阿佐ヶ谷 なな

阿佐ヶ谷ジャズストリートを見て感動し、吹奏楽部へ。サクソ初心者ながら日々熱心に練習中。



8

方南 音色

「音色」は普門館に流れる吹奏楽のメロディをイメージ。髪色は普門館跡地の芝生と音色のイメージの紫。

杉並区議会 第3回定例会 閉会

令和5年度決算ほか36議案を議決

杉並区議会の第3回定例会が9月10日から10月16日まで、37日間にわたって開かれた。令和5年度決算に関する特別委員会のほか、子どもの居場所、権利、若者支援、ジェンダー平等などに関する新たな会議体の発足や条例などについて論戦が行われ、賛否が分かれつつも、区長から提出された36件の全議案を原案通り可決した。

一般質問の話題から

前号に引き続き各議員の一般質問の通告項目および質問・答弁で話題になったことから一部を紹介する。
※敬称略、()内は会派名、登壇順、議員が通告したテーマ

松本 浩一 (立憲民主党杉並区議団)
①ヤングケアラーおよび若者ケアラー支援

安田 マリ (立憲民主党杉並区議団)
①子ども食堂
②阿佐ヶ谷のまちづくり

奥田 雅子 (区議会生活者ネットワーク)
①高齢者の在宅生活を支える取組み

そね 文子 (区議会生活者ネットワーク)
①ジェンダー平等実現に向けた取組み

鈴木 ちづる (維新・無所属議員団)
①まちづくり(駅前再開発事業)
②共創
③女性の更年期症状

宇田川 ゆうじ (無所属・都民ファーストの会)
①学校における協働授業と教員の働き方改革
②太田黒公園の休園日と荻窪のまちづくり

山本 ひろ子 (杉並区議会公明党)
①多文化共生社会
②高齢者施策

井口 えみ (無所属・都民ファーストの会)
①荻窪三庭園

奥山 たえこ (れいわを耕す)
①岸本聡子区政2年のふり返りと公約達成率
②マイナ保険証の強制と紙の保険証の

廃止

てらだ はるか (立憲民主党杉並区議団)

- ①児童福祉
1)すべての子どもを受け入れる保育
2)福祉としての居場所

ひわき 岳 (立憲民主党杉並区議団)

①善福寺川の水害対策とグリーンインフラ

田中 ゆうたろう (杉並をセンタク致し候)

- ①暴走・迷走の岸本区政
②杉並芸術会館(座・高円寺)

横田 政直 (参政党杉並)

- ①新型コロナワクチンの定期接種
1)レプリコンワクチン(コストイベ筋注)
2)精神疾患を有する者が主体的に課題を解決できる仕組み
3)不登校児童への対応

堀部 やすし (無所属)

- ①区の入札・契約制度
1)指名停止措置の現状及びその運用状況
2)入札・契約手続の運用状況
3)プロポーザル方式による事業者選考のあり方

松尾 ゆり (杉並わくわく会議)

- ①住民自治と対話
1)児童館
2)(仮称)デザイン会議
3)杉一小と阿佐谷まちづくり

子ども・若者

◆6月に改正された「子ども・若者育成支援推進法」では、国や自治体が行う支援の対象を、日常的に家族の世話や介護を担う子ども(ヤングケアラー)に加えて18歳以上おおむね30歳までの若者も含め、さらに社会生活に困難さを抱える30代なども支援対象とすることが明記された。杉並区でも組織横断的なプロジェクトチームで、実態調査、関連事業者との情報共有などを進めてきたが、30代への支援は今後の課題となっている。

◆区内の子ども食堂運営は2016年8団体から2024年9月時点で45団体に。いま

青年会議所(JC)杉並区委員会

50周年記念式典、和やかに祝う

東京青年会議所杉並区委員会(後藤優美委員長)は9月27日、荻窪タウンセブンホールで50周年記念式典を開催した。現役メンバーに加えて、歴代の委員長やOB会員など約40名が集い、歴史を振り返りつつ、今後の活動への期待や決意を確認しあう場となった。

後藤優美委員長は、多くの先輩諸氏の名前を挙げながら感謝の意を述べ、「先輩方が繋いできた良き伝統を未来へ紡いでいきたい」と挨拶。OB会の富岡洋一会長は「私が入会した頃は、杉並区委員会から東京の理事、まして日本の会頭(相澤弥一郎・第



後藤優美委員長は、多くの先輩諸氏の名前を挙げながら感謝の意を述べ、「先輩方が繋いできた良き伝統を未来へ紡いでいきたい」と挨拶。OB会の富岡洋一会長は「私が入会した頃は、杉並区委員会から東京の理事、まして日本の会頭(相澤弥一郎・第

年記



杉並から日本JC会頭を務めた相澤弥一郎氏

59代日本青年会議所会頭)を輩出するとは想像できなかった。私自身も情熱を注げるものに出会えたことに感謝し、今後も応援していきたい」と述べた。

式典の後は歴代委員長の対談や後輩に向けたコメントのタイムカプセル制作などの企画が続き、和やかな雰囲気のお祝いの席となった。



50周年記念式典

子どもだけでなく地域食堂の役割も担っている。区は「子どもの居場所づくり基本方針」で補助などの支援を検討する。

高齢者

◆高齢者単身世帯36%、高齢者夫婦のみ世帯35%、と高齢の在宅生活者はさらに増加の見込み。その生活を支える訪問介護事業所は令和5年度廃止8所、新設15所、本年度8月末までではそれぞれ2所。ケアマネジャーは令和6年4月121所354人、令和2年4月からの推移としては32所6人減。区としては事業所やケアマネが大きく不足していると言われている中、深刻な大幅減ではないとの認識。

共生社会

◆杉並区では昨年度から、性の多様性尊重の条例、パートナーシップ制度運用を開始しているが、男女平等に関する実態調査では男女平等が達成できていると考えている区民は10%程度。
◆杉並区内在住の外国人は令和6年1月1日現在19,178人、前年より2,257人増。10年前からは約1.7倍に増加。在留資格では永住型が約3割、一時滞在型が増加傾向。区では多文化共生基本方針策定に取り組んでおり、岸本区長としては「支援」中心から「地域社会

での活躍」の視点を取り入れたものになりたいと意欲を示している。

行政

◆岸本区政2年のふり返りとして区長は「前例や固定観念に縛られずに発想できることが、行政経験のない私だからこそその強み。ただ一人では出来ず、行政の意思形成プロセスを学び、職員と意思疎通をはかり、目標を共有して、道筋を見出す。大変だが、やりがいがある」と述べた。

◆電子契約サービスを10月から導入。工事等500万円未満、購入等500万円以上の契約を対象とし、当初は件数を抑え検証の後に拡大の予定。電子契約可能になることで、事業者等は役所への来庁、郵送の手間が省略され、事業者が負担してきた印紙代も不要なる。総務課で実施している契約を将来すべて電子にした場合、5年度ベースで年間2,000万円程度の経費削減を見込んでいる。

まちづくり

◆7月から公園利用の新しいルールがスタートしており、喫煙については全面禁煙を基本とし、5か所に分煙施設を置く。非喫煙者や周辺環境への配慮から、一定の広さがある井草の森、馬橋、塚山、桃井原っぱ、蚕糸の森公園に設置。

杉並区福祉有償運送団体連絡会 パルシステムの助成を受けて共同で広報活動

杉並区福祉有償運送団体連絡会は力を合わせてPR活動を展開することを決め、ドライバー（運転協力員）を募集する案内チラシを共同で制作。連絡会としての資金が無い場合、生活協同組合パルシステム東京（松野玲子理事長）の「市民活動助成基金」に応募し、このたび活動内容の審査を経て、66団体中12の助成団体に選ばれた。10月5日、パルシステム東京の本

部で助成金伝達式が開催された。福祉有償運送とは、介護や障害等の理由で公共交通機関を利用しての移動が困難な人たちの外出支援、移動・移送支援を行うもので、NPO等の非営利組織が自家用自動車を使用し、運営している。各事業者とも運転者の獲得が難しく、利用のニーズにも応えきれず、このままでは事業そのものの存続が危ういとの

危機感を共有。地域で必要としている方々の支援をし続けるため、運転協力員を求める活動を、共同で行おうというもの。今後、すぎなみ地域大学での講習や地域活動、ボランティア活動に関心の高い人たちにに向けてアピールしていく。



ちよつとアシスト 杉並にも助けるべき猫がいる

杉並区を拠点として地域猫の保護活動を行っている「高円寺ニャンダラズ」。代表の佐藤洋平さんは、2011年の東日本大震災の被災地支援をきっかけに「動物」に対するボランティア活動があることを知る。初めは被災地でのペットレスキューの活動を軸に行っていたが、「被災地だけでなく、東京にもたくさん助けるべき猫がいる」という獣医師の言葉をきっかけに杉並区での活動を始めた。

高円寺ニャンダラズが大事にしていることは、保護猫の不妊去勢手術だけではなく、ワクチン接種や健康診断まで行い、ボランティアの方に可能な限り家庭で育ててもらってから



里親さんの元に届けることだ。また、ハナ動物病院（梅里2丁目）の太田快作氏が顧問獣医師となっている。

佐藤さんは「杉並区での殺処分ゼロの実現、そして能登をはじめ被災地での活動も行っていく。そのためには活動費の寄付や物資支援の協力をお願いしたい」と語っている。活動の原動力は何か？と尋ねたところ、「何よりも猫が好きなんです。悲惨な状況を一度見てしまっただけではもう止まらないです」と笑顔で答えた。（水田）

杉並区には「杉並どうぶつ相談員制度」がある。すぎなみ地域大学で毎年実施している「杉並どうぶつ相談員講座」を修了した人が杉並区から委嘱を受け、ボランティアで区民の身近な相談員として、動物の飼い方・動物愛護・動物との付き合い方等の相談や普及啓発活動を行う。佐藤さんもその1人である。

浴風会つながるフェスタ

高井戸東の社会福祉法人浴風会で10月19日、第12回「浴風会つながるフェスタ」を開催。広い敷地内の施設やスペースを活用して複数の会場を設け、金田一秀穂氏の講演会やコンサート、手作り体験のワークショップ、移動動物園、キッチンカーなど多彩なイベントを提供した。毎年、地域の方々をはじめ多数の来場者で賑わいを見せている。



デザートとフルーツの素敵なコラボレーション ~Sensibilité~

10月19日、高円寺中央公園に面したカフェ『NEYO KOENJI』で、パティシエ上野望さんとフルーティスト保坂珠美さんのコラボレーションイベントが開催された。「お互いのアート、テクニック、イメージを取り込み、唯一無二の時間を表現」とうたい、アミューズとデザート、ソフトドリンクを堪能しつつ、保坂さんのフルーツと本間尚

樹さんのギターによる演奏に聴き入るひとときとなった。



『愛の賛歌』にバラをイメージしたケーキ

うちのエース!

鈴木眞世さん/夢ちゃん、ナッツくん、さぶくん

ニャンダラズから引き取った元保護猫たちと暮らす鈴木眞世さん。7歳のお母さん猫・夢ちゃんとその子どものナッツくん、後からやってきたさぶくんの3匹とふれあうと、仕事のストレスも疲れも一気に吹き飛ばす! とのこと。ナッツくんは仲良し兄弟のレイくんといつも一緒に過ごしていましたが、病気でレイくんが3歳の時に亡くなると、一時は鬱状態に。悩んだ末によく似たさぶくんを迎えることにしました。家に帰ると眞世さんのところに飛んでくる子たち、寝る時も一緒。



さぶくん

ナッツくんとレイくん



夢ちゃん

お母さんの夢ちゃんは慣れるまでに数年かけて、ゆっくり丁寧に関わってきました。引き出しに隠れたりするさぶくん、静かに甘えてくるナッツくん、個性的な子たちに囲まれ、鈴木さんご夫妻は「いろいろな表情や感情表現があって、毎日癒され、活力をもらっています!」と彼らとの出会いに心から感謝している毎日です。

知ってあんしん!

暮らしの防災ミニガイド

第2回 防災グッズは「使うタイミング」で備えて安心!

今回はいざ防災グッズを備えるときの「タイミング」をご紹介します。皆さんは朝起きてから、この記事を読むまでに、何を使ったでしょうか。メガネ、トイレ、洗面所

(水)、タオル、飲み物、エアコン...「これがないと一日困るな」という物はありますか。それらが「あなたが最優先で備えておく物(防災グッズ)」です。



防災グッズ = 私の暮らしを支えてくれるもの

こうした使うタイミングに応じた備えを「0次、1次、2次の備え」と言います。0次は日頃使う物、1次は数日の間に使う物、2次は1-2週間で使う物、と考えると分かりやすいです。予備のメガネ、携帯トイレ、飲料水、瞬間冷却材(叩くと冷たくなる袋)...被災後の「私の暮らしを支えてくれる物」が何か、どんなタイミングで使うかを意識して備えてください。

インターネットの「東京備蓄ナビ」サイトで、家族構成や住居に応じた備えの品目や数量を確認できます。ぜひチェックしてみてください。

すぎなみ ace 公認 防災ガイド: 災害支援・防災教育コーディネーター/社会福祉士 宮崎 賢哉 (杉並区在住)

さんじゅ体操

特別養護老人ホームさんじゅ阿佐谷(田中則和施設長)では、地域向けに「さんじゅ体操」を開催(定員10名)。今年度の第3回目として9月24日、同ホームの機能訓練室で地域住民7名が参加して開催された。今回のテーマは「目まいの予防体操」。ホームのリハビリを担当する機能訓練

指導員・川人貴広氏がオリジナルで企画しているもので、解説と実技を組み合わせ、リピート参加の方々も多く、施設の地域貢献活動として定着しつつある。今回は11月26日14時から、「呼吸で変える体幹づくり」。お問合せ、お申し込みは「特別養護老人ホームさんじゅ阿佐谷」電話03-5373-3911まで。

私たちは すぎなみ Ace エース を応援します!

まちづくりを共に考える



株式会社
トライエム

東京都杉並区阿佐谷南 1-34-6
新東京会館ビル



株式会社
アーバンファミリー

アブラック募集代理店
代表取締役社長 榎原裕記

東京都杉並区上荻 1-23-19-4A 東神荻窪ビル
Tel. 03-3391-8808



株式会社
渡辺一建設

東京都杉並区堀ノ内 2-32-4
Tel. 03-3313-3121



株式会社
MKホールディングス

東京都杉並区堀ノ内三丁目 25-5
Tel. 03-3313-2511



2025年6月予定の河北総合病院（阿佐谷北）の新病院の開設に向けて、このシリーズでは各部門の医師や担当者から、新病院における今後の計画や地域にもたらす影響などを語っていただく。第2回目となる今回は、先日、米国ベストドクターズ社の“The Best Doctors in Japan 2024-2025”に選出された整形外科部長の湯浅崇仁先生のインタビューを掲載する。（辰巳）

健康診断では骨の状態を知ること大切 早期に確認、治療につなげて健康寿命を延ばす

手術室が増え、対応力も強化

新病院開設によって手術室が増設されることは、整形外科にとっても体制強化につながります。現在、当院では、杉並区だけでなく、中野区や世田谷区、練馬区といった周辺地域から外傷の患者さんを受け入れる機会も多いです。2023年度は整形外科だけで年1,200件を超える手術を行っています。これは多い方に分類されるものです。

この地域では2か月に1回、整形外科の医師が集まる会合もあり、当院では脊椎専門の医師がいない時に杏林大学杉並病院や荻窪病院との連携で対応することもあります。ただ、整形外科のクリニックが荻窪や高円寺には多く、阿佐ヶ谷には少ないなどの地域偏在もあり、病院やクリニック間の連携は、整形外科分野でも重要なテーマになっています。

健康寿命延伸のために

年に一度の健康診断、皆さんは受けていますか？会社では受けていても定年後、ついつい忘れがちになってしまう方も多いのではないのでしょうか。改めてこの機会に健康診断の定期受診をお願いしたいと思います。そしてできれば、骨密度測定など骨の状態も確認していただくことをおすすめしたいところです。

日本骨粗鬆症学会のデータによると、現在、わが国の骨粗鬆症患者は1,300万人を超えており、特に60歳以上の女性は約3人に1人、70歳以上の方は約2人

に1人がなりやすい現状です。しかし、早期にこの疾患に気づき、適切な治療を始めることができている患者さんは全体の約2割程度に留まっています。

当院で整形外科領域の手術をされる患者さんは80歳を超える方も多く、これはこの杉並エリアの特長の一つであると考えています。かつては80代以降での手術は積極的ではありませんでしたが、いまや技術や医療材料の進歩もあり、当たり前に行われます。骨粗鬆症は数ある整形外科の疾患の1つにしか過ぎません。私が専門としている股関節などの人工関節等の手術を高齢の方にも受けていただくのは、やはり骨や関節の手術によって日々の生活の中で動く、歩くということを大切にしたいからです。いわゆる「健康寿命」を延ばすためにも、積極的な健康診断と早期の治療を整形外科分野でも考えていただきたいと思います。

新しい病院になって手術件数が増えることも予想されますが、一方で地域の方々や健康教室などを通じて皆さんと健康づくりのためのコミュニケーションの機会も増やせたらと考えています。

整形外科部長兼手術部長
湯浅 崇仁（ゆあさ たかひと）
《主な専門分野》股関節、骨粗鬆症

順天堂大学整形外科教室非常勤講師
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本人工関節学会認定医
身体障害者福祉法15条指定医



河北健康教室

「成人股関節疾患」テーマに 約60名参加



実際のレントゲン写真を見ながら

9月19日、阿佐谷地域区民センターで河北健康教室が開催された。今回は整形外科部長・湯浅崇仁氏による「成人股

関節疾患」の原因と治療がテーマで、約60名が参加した。

湯浅医師は股関節手術を多く手掛け、股関節周囲筋を温存した低侵襲な（負担の少ない）手術を行い、海外での研究、臨床経験を経て、2022年から現職。

整形外科領域ではフレイル（介護と健康の間の虚弱、加齢により心身が老い衰えた状態）を予防することも重要で、この日も中高年齢以上の男女が熱心に聞き入っていた。

緑との対話



「造園」は庭や公園を造るだけでなく、自然を活かし、環境を造る仕事……。大場氏の言葉から改めてその意義や奥深さを感じた。技術はもちろん、どのように表現し、造り上げていくのか、様々な力量が問われるクリエイティブな仕事である。しかも長い目で、先を見渡して、環境を意識して造る、そんな姿が目につく。（中田）

造園業の未来と長期的な視点： 技術と想いを形に

樹木は人間と同じように寿命があります。これからの造園や緑に対する考え方は、何年先を見据えるべきかが問われます。長期的な視点で「環境」を造り上げることが求められています。都内でも複数の地点を繋いで鳥や虫が行き来できることを想定した植栽、屋上庭園づくりが行われるなど、緑、樹木だけではない環境を意識したまちづくりの発想です。私たちの造園業は、AIや機械化が進む中でも、人間の技術と判断が不可欠な仕事だと思っています。測量や計算、あるいは施工などについては機械化が進んでいます。かつては複数の人間で目視しながら行っていた測量もコンピューターや計測機器で瞬時に結果が出ます。草刈りも機械が一気に行うことが可能になって、我々が直接行わなくてもよい仕事になりつつあります。

しかし、木や石などの自然物を扱い、その「美しさ」を判断するのは人間の役割です。造園に関わる様々な技術とともに、自然への深い理解が重要です。造園家は自然物を扱い、その技術で社会に貢

献する仕事です。自然の樹木や石などを相手に、時に危険が伴い、表現の難しさと向き合っています。自然の植生、そこにいる生き物、環境など、幅広い知識や技術、美しさなどの感性……。とても奥深い魅力ある仕事です。だからこそ、これから我々はどういう方向に進むべきか、日々悩んだり、考えたりしています。地域社会と緑の共存を考え、これからの100年を見据えた環境づくりを進め、地域の皆さんとともに、持続可能な未来を築いていくための提案を続けていきます。

※本稿は大場氏へのインタビューをもとに3回連載の記事として編集したものです。バックナンバーをご希望の方は編集部までご一報ください。

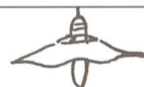


株式会社大場造園 会長/東京農業大学 非常勤講師
大場淳一氏

JR 中央線快速にグリーン車導入

JR 東日本は首都圏近郊路線にグリーン車サービスを提供しているが、来年春から中央線快速・青根線にも2階建てグリーン車を2両導入。10月から12両編成の電

車が走るようになるため、ホームの停止位置が変更になっている。本格的なサービス導入まで「お試し期間」としてグリーン料金不要で利用することができる。



編集長のつぶやき



議員の皆様へ期待すること

まさかと思っていた早期の解散総選挙。これまで何度も選挙の際の取材を経験しているが、駅頭の演説で今でも印象に残っているものが一つだけある。かつてある国会議員が対立候補のタレント投入の選挙戦に対して「政治は古来より『まつりごと』と言うのです！」とイベント化した選挙のあり方に怒りを込めた演説をしていた。ご本人の危機感もあったと思うが、非難の攻撃ではない内容で、迫力ある演説、その光景は今でも鮮明に覚えている。

そして選挙を勝ち抜いた議員の方々が議会で質問や提案をして、地域のた

めに活動していることには大いに興味を持っており、調査や研究が必要で費用がかかるのも当然だと思う。だからこそ、がっかりするような質疑や議論を見聞きすると残念でならない。例えば、私自身が10年以上関わっている高齢者施設、介護の問題は多くの議員が取り上げるが、これまで自分の目で現状を把握したいと見学や調査に来られた議員は2、3名に過ぎない（他に行かれているのか?）。

選挙は人気投票ではない。有意義に働いて下さる方が選ばれ、力を発揮していただくための場と機会であってほしいものである。

編集発行人 中田あかね

- すぎなみ ace はこちらに置いていただいています
- (株) 興建社 [荻窪5] / ミスティ・オーパース [阿佐谷南2] / おきやんち [阿佐谷北3] / さんじゅ阿佐谷 [阿佐谷北1] / さんじゅ久我山 [久我山3]
 - / マイルドハート高円寺 [高円寺北1] / 渡辺建設 (株) [高円寺南4] / 武蔵商事 (株) [上荻1] / 新泉サナホーム [和泉1] / 西武信用金庫 阿佐ヶ谷
 - 南支店 [阿佐谷南3] / Yazetto [阿佐谷北1] / カレーショップ KYU [阿佐谷北1] / (株) 大藪保険コンサルタント [天沼3] / 河北総合病院 [阿佐谷北1]

こんにちは! 『すぎなみ ace』編集部です。

皆様からの情報提供や取材依頼、地域で活動する方々のご紹介などをお願いします。地元で行われている注目の活動や、もっと知ってほしい地域のニュース、特に印象的な写真など、何でも結構です。皆様の日常に溶け込む地域の小さな出来

事も、大きなニュースも、取材して記事を作ってまいります。

【情報提供】地域のイベントや気になる出来事、お祭り、工事、新店舗のオープン情報などをお寄せください。

【取材依頼】皆様の活動やイベントの取

材、人物インタビューをさせていただきます。

【写真投稿】地域の風景、イベントの様子、日常の一コマなど、皆様の目を通じた杉並区の魅力を共有してください。

【団体の広報支援】NPO や地域団体の活動をサポートし、その取り組みを多くの

人に知ってもらおうお手伝いをします。

★広告や購読のご支援をお願いします。
『すぎなみ ace』編集部

メールアドレス: info@projectace.jp
電話番号: 03-5364-9301